第一講・少年たちの夏①（物語文）

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

六月にはいってすぐの土曜日だった。学校からの帰り道、ぼくは①まもるに計画をうちあけた。

「いかだいうても、ぼろ木を組んだような、ちゃちなやつじゃないがぞ。もっと、ずっと、かっこええがぜよ」

ぼくがそういうと、まもるは目をぱしぱしさせて顔をむけた。まもるが、興味（きょうみ）をしめした証拠（しょうこ）だった。すぐにのってきた。

「外海（そとうみ）へでてもでれそうな、たとえば船室があるとか、マストがあるとか、そんながかえ」

まもるは、色白のひたいに、汗（あせ）を光らせていた。やせっぽちのくせに、やたらと汗をかくやつだった。

「屋根ぐらいつけてもええねや」

「材料は、なにでつくるが」

まもるは、ちょっと不安そうにぼくを見た。

ぼくの頭の中では、すでにいかだはできあがっていた。名前さえ、もう決まっていた。名づけて、ドラゴンホース号だ。竜（りゅう）のような馬。雄々（おお）しく、たけだけしく、四万十川（しまんとがわ）をとぶようにすべっていくのだ。

それは、ぼくらの高知県が生んだ偉人（いじん）であるところの、坂本竜馬（さかもとりょうま）の名前もひっかけている。これ以上の名前があるとは思えない。

「竹でつくるがよ」

「竹？」

「そうぜよ。ひとりのりじゃけん、ぼくとまもると一そうずつつくる」

「一そうずつ！」

②まもるはそうさけんで、また目をぱしぱしさせた。

〈横山（よこやま）　充男（みつお）「少年たちの夏」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　──線①「まもるに計画をうちあけた」とありますが、あいつ、いどこでうちあけたのですか。文中からそれぞれぬき出しなさい。

あ

い

(2)　──線②「まもるはそうさけんで、また目をぱしぱしさせた」とありますが、このときのまもるの気持ちを表した言葉としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　興奮（こうふん）　イ　興味（きょうみ）　ウ　失望　エ　感動

(3)　この文章は、どんな場面について書かれていますか。それを説明した次の文の□にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

「ぼく」がまもるに□で、ひとり□ずつ□をつくる計画をうちあけた場面。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「①ちょっと、見ていこうか」
とまもるは、緊張(きんちょう)した声でいった。
ぼくはどちらでもよかった。
まもるは、ぼくがはっきりとへんじをしないものだから、もじもじした。そのちょっとした間が、ぼくらをたかっさんのところへいけなくした。そばの竹林から、圭造(けいぞう)がでてきたのだ。
「たかっさん。こんなもんでええやろか」
②圭造はそういいながら、けずった竹を五、六本さしだした。学校ではけっして見せない笑顔(えがお)だったし、あかるい声だった。
「ああ、ちょうどいいよ。わるいね。いつもてつだってもらって」
「かまへん、かまへん。どうせ、ひまなんやし」
たかっさんは、竹の先をペンのようにして、画用紙に線をいれていたらしい。それも太さのちがう竹先をいろいろつかって、どんな線になるかためしてるらしいのだ。まもるは、その技術(ぎじゅつ)をそばで見たいらしい。
「ちょっとだけ、いこう」
とまもるは、懇願(こんがん)するようにいった。
③その声を、圭造がききのがさなかった。ぼくらのほうを見て、とたんに眉間(みけん)にしわをよせた。
圭造はぼくらとのあいだに、それ以上近づくことをゆるさない空気を張(は)った。

〈横山(よこやま)　充男(みつお)「少年たちの夏」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「ちょっと、見ていこうか」とありますが、まもるは何を「見ていこう」といっているのですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　たかっさんに線のいれかたを学んでいる圭造の様子。
イ　そばの竹林で竹をけずっている圭造の様子。
ウ　たかっさんが竹先をつかってかいた絵。
エ　たかっさんが竹先をつかって線をかく技術。

□

(2)　――線②「圭造」とありますが、「圭造」はどんな人物ですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　「ぼく」やまもると同じ学校に通っているが、学校では人と親しもうとしない人物。
イ　「ぼく」やまもると同じ学校に通っていて、いつも笑顔であかるい人物。
ウ　ただ一人の友人であるたかっさんにおこられないようにと、おどおどしている人物。
エ　用事を言いつけるたかっさんに対して、いつもさからえない内気な人物。

□

(3)　――線③「その声を、圭造がききのがさなかった」とありますが、そのときの圭造の気持ちとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　二人が来てくれたのでうれしく思っている。
イ　呼んでいない二人がいるので不機嫌（ふきげん）になっている。
ウ　ちょうど人手が足りていなかったので、安心している。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講●確認テスト

正しい送りがなを選びなさい。

1 みずから

ア 自　イ 自ら

ウ 自から　エ 自ずから

2 かならず

ア 必　イ 必ず

ウ 必らず　エ 必ならず

3 すくない

ア 少　イ 少い

ウ 少ない　エ 少くない

4 もっとも

ア 最　イ 最も

ウ 最とも　エ 最っとも

5 あらわれる

ア 現る　イ 現れる

ウ 現われる　エ 現らわれる

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

解答編

小学5年　国語〔基礎〕

第一講　少年たちの夏①（物語文）

一題目

(1) ㋐六月にはいってすぐの土曜日
　㋑学校からの帰り道
(2) ア
(3) 竹・一そう・いかだ

二題目

(1) エ
(2) ア
(3) イ

〈確認テストの解答〉

1 イ　2 イ　3 ウ　4 イ　5 イ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。